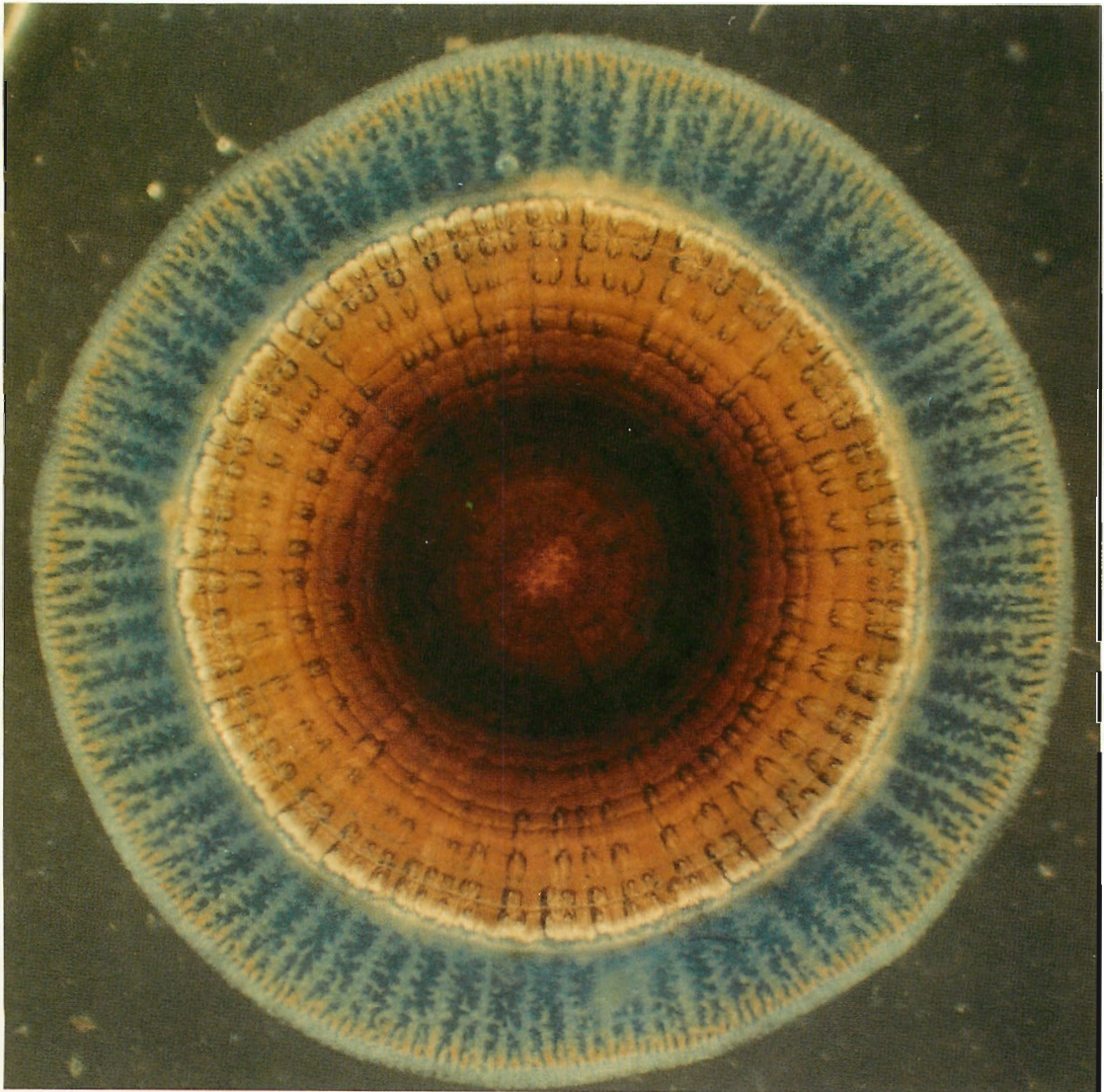


# 大阪薬科大学報

# 25

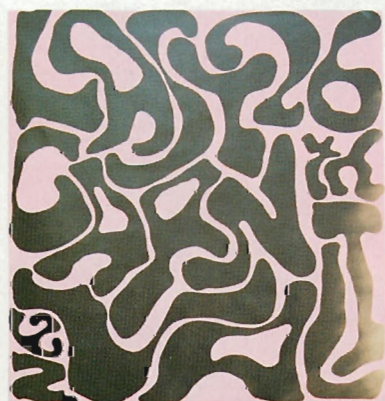
1991年(平成3年)12月5日発行

大阪薬科大学広報委員会



## 目次

薬用植物の紹介 ショウガ	草野源次郎	1
在学生アンケート調査結果について	田中千秋	2
医療薬学実習制度6年目を迎えて	酒井清	4
就職状況中間報告	森逸男	6
第26回大薬祭を振り返って	稲森善彦	8
研究室だより 第一生薬学教室	草野源次郎	10
化学第二教室	曾根節子	11
就任の挨拶 「明るい大阪薬科大学づくり」をめざして	稲森善彦	12
新任の挨拶 分析化学での新たな出発	齊藤睦弘	13
平成3年度大型機器の設置について	千熊正彦	14
平成2年度学校法人決算について	吉野幸夫	15
提言 本学広報活動の現状と問題点	保坂康弘	16
報告 ワシントン大学留学レポート	土井光暢	18
平成3年度公開教育講座	公開教育講座委員会	20
学部入学試験要項	院博士前期(修士)課程入学試験結果	7
法人理事・評議員叙勲・褒章	特別講演会	13
経理課だより	教務課だより	22
学生課だより	図書館だより	25
保健室だより	文部省科学研究費補助金採択状況	27
奨学生状況	全国・関西薬学連盟大会結果	29
各部・委員会・委員一覧	人事異動	30
後期行事予定	親和会だより	31
巻末特集 悲願の優勝! '91四薬大親睦野球大会		32



第26回大薬祭  
 “ラストカーニバル…!”  
 会場 ハイヒール、13むら商店、このへら  
 主催 カラオケ農務 ハラ祭  
 大薬祭実行委員会  
 TEL 0723-32-1015

表紙の写真は

ギンカクラゲの傘 (Porpita umbella)  
 実体顕微鏡 (SMZ-U) 観察, 暗視野約4倍  
 [房総半島にて採取 (平成3年8月)]

撮影; 教授 保坂康弘

## シ ヨ ウ ガ

ショウガは約45属、1300種のショウガ科植物の代表である。この科の植物の多くが熱帯アジアの高温多湿な地帯を原産地とするが、ショウガもインドまたは東南アジア諸島が原産地とされる。

わが国へは天平年間あるいはそれ以前に渡来したといわれている。秋に種ショウガを収穫し、春に植え付け、夏から秋に掘り上げる。連作を嫌い、5年間の休耕が一般的である。このように手のかかる作物が代々引き継がれ、今日に伝えられている意義は大きい。

インドや中国では古来ショウガが最も重要な調味料であった。ギリシャ時代やローマ時代には、アラビア人達が東南アジアからヨーロッパへ運んだ重要な商品の一つであった。コロンブスを海路東洋へとかりたてたのも、ショウガで代表される香辛料であった。アメリカ大陸発見後、スペイン人はショウガをジャマイカに持ち込み、品種改良をして、ジャマイカショウガが誕生した。インドのコヒンショウガと共に一級品の香辛料である。

ショウガの根茎が生姜と呼ばれ、重要な生薬である。



「牧野新日本植物図鑑」より

姜は邪を防ぐことを意味し、この植物が薬用に供されることを示唆している。その強い殺菌力や抗酸化力が肉類や脂肪類などの腐敗や過酸化による中毒を防ぐことを知っていたのであろう。さらに、ショウガは血行を改善し、発汗を促し、風邪の初期症状を改善する。血液の粘度を下げ、高い粘度が因で起こる病気を防ぐ。去痰作用、消化および食欲増進、消化管の蠕動運動や胃液分泌の促進、腸内異常発酵の抑制、ガスの排泄促進、血中コレステロールの低下と排泄促進、アルファリポ蛋白とベーターリポ蛋白の正常化、抗潰瘍作用、抗セロトニン作用などのあることが証明されている。

濃いショウガエキスは粘膜に傷を付けるが、他の食べ物や生薬と混合することは理にかなっている。健康保険の対象になる210種の漢方薬のうち、65種にショウガが配合される。甘草(143)、茯苓(73)、芍薬(69)、大棗(68)に次いで、5番目に多く使われる。半夏と一緒に使われることが多く、そのえぐ味を効果的に消している。ショウガ湯などの保健薬も多い。

現在、日本産のショウガは食べ物として使われ、その腐敗や過酸化を防ぐと共に、魚肉などの生臭さの因であるトリメチルアミンの発生を抑え、コラーゲンの分解を促進して、肉類を柔らかくすると共に、うま味を増している。一方、中国および東南アジア産のものが輸入され、薬用に供されている。どちらも大切で、上手に利用して健康の維持、増進に役立てたいものである。

(文・写真：教授 草野源次郎)



# 在学生アンケート調査結果について

教務部長 田 中 千 秋  
教授

今日、大学の大量化、学問の進歩、社会状況の変革に基づき、充実した多彩な大学像の確立が求められています。大学審議会は、文部省に対し平成3年2月に“大学教育の改善について”、さらに5月に“大学設置基準等及び学位規則の改正について”の答申を行いました。文部省は省令により大学設置基準の改正を行い、7月1日より施行されることとなりました。改正の重要な一項目は、大学における教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行うこととあります。このような背景から、今回のアンケート調査を企画致しました。

調査項目が多数にわたりますので、個々についてのコメントは紙面の都合で差し控えます。教育に関しては、学生のニーズにあった特色あるカリキュラムの編成、基礎科目と専門科目の有機的な関連付け、教員の教授内容・方法の改善・向上への取り組み、学生の学習の適切な評価等の重要性が痛感されました。この調査結果は十分に分析され、今後の教育活動に、また大学発展の施策に役立てられるものと期待しております。

〔Ⅱ～Ⅶ中の数字は各年次回答者総数に対する%を示す〕

## Ⅰ. アンケート回収状況 (表Ⅰ)

(表Ⅰ) 回答者数

	1年	2年	3年	4年	計	在籍数	%
男	82	46	65	92	285	468	61
女	152	108	169	119	548	695	79
計	234	154	234	211	833	1163	72
在籍数	308	249	311	294			
%	76	62	75	72			

## Ⅱ. 入学前の状況 (1年次生)

- 履修科目  
 数学：数Ⅰ 100, 代数幾何 100, 基礎解析 100, 確率統計 88, 微分積分 82, 数Ⅱ 24  
 理科：化学 100, 理科Ⅰ 84, 生物 62, 物理 59, 地学 15, 理科Ⅱ 7
- 大学入試センター試験 受験 71  
 理科の受験科目 化学 67, 生物 23, 物理 20
- 他大学受験数  
 国立：1校 25, 2校 15； 公立：1校 16  
 私立：3校 21, 5校 19, 4校 15, 2校 14  
 受験学部  
 薬学 53, 理学 15, 工学 14, 農学 10, 理工学 8, 医学 6
- 本学の志望順位 第2 44, 第1 24, 第3 16, 第4 9, 第5 3
- 本学への入学理由 薬剤師になる 63, 就職に有利 23, 学問の追求 21, 薬学士になる 7, 学生生活の享受 5, 人格の向上 4
- 学生生活の目的 勉学 55, 交友 33, クラブ活動 18, 趣味10

## Ⅲ. 入学後の意識について (表Ⅱ)

(表Ⅱ) 入学後の意識

		1年	2年	3年	4年	全体
1. 薬学に適応	適	29	25	29	37	30
	不適	6	14	18	18	14
	不明	65	61	52	43	55
2. 入学に満足	満足	37	32	32	32	34
	不満	25	25	23	20	23
	不明	37	43	45	45	42
不満な点	環境, 講義, 設備, 活気, 試験制度, カリキュラム, 小規模					

#### IV. 講義・実習について (表Ⅲ)

[科目名は20%以上のもの]

##### 1. 魅力を感じる科目

生物学Ⅱ, 有機化学Ⅰ, 微生物化学, 生理学, 薬理学Ⅰ, 衛生化学

理由 ていねい, 解りやすい, 興味がある, 熱心, 役立つ

##### 2. 魅力を感じない科目

数学, 応用推計学, 薬剤学Ⅰ, 薬剤学Ⅱ

理由 解りにくい, よく聞こえない, 板書が見にくい, 苦手, 進度が速い

##### 3. 理解できない科目

数学, 化学Ⅱ, 化学Ⅰ, 応用推計学, 薬剤学Ⅰ, 放射化学, 生化学Ⅱ, 薬剤学Ⅱ

原因 (表Ⅲ)

教える側の問題点

よく聞こえない, 板書が見にくい, 説明が解らない, 進度が速い, 一方的

(表Ⅲ) 講義・実習

		1年	2年	3年	4年	全体
1. 講義が理解できない原因	自分の努力不足	9	11	15	9	11
	教える側に問題	57	55	42	43	49
	両方	23	21	24	15	21
2. 講義の科目数	多い			23	29	26
	少ない			1	2	1
	普通			76	64	71
3. 実習に満足	満足	54	53	43		50
	不満	14	17	26		19
	不明	30	30	24		28
4. 実習の科目数	多い			36	43	40
	少ない			1	1	1
	普通			62	46	54

#### V. 学習の充実について (2～4年次生)

##### 1. 新カリキュラム制度 (2, 4年)

再試験の復活, 厳しすぎる, 休みが少ない

##### 2. 学習意欲の向上

魅力的な講義, 解りやすい講義, 小テスト, 学生の自主性, 図書館の充実

##### 3. 学習成績の評価

評価の基準が不明, 答案の返却, 未修得科目の点数発表, 成績発表を早く, 優良可評価, 出席・レポート・小テストを考慮, 席次発表

#### VI. 国家試験について (3, 4年次生)

##### 1. 国家試験が気になる 3年 87, 4年 82

理由 試験対策不明, 合否不安, 将来に影響, 資格が欲しい, 国試対策が少ない, 勉強する時間がない

##### 2. 試験対策が必要 3年 62, 4年 78

##### 3. 対策 補講: 3年 27, 4年 39

模擬試験: 3年 38, 4年 46

模擬試験の回数 (4年): 2回 54  
3回以上 42

##### 4. 他大学の国試対策情報 (4年)

気になる 42, 気にならない 51

#### VII. 学生生活について

##### 1. クラブに所属している

2年 67, 3年 70, 4年 71

##### 2. アルバイトをしている

2年 79, 3年 76, 4年 35

##### 3. 進路希望

3年: 企業 24, 病院 15, 大学院 5,  
公務員 4

4年: 企業 34, 病院 18, 大学院 9,  
薬局 3, 公務員 1

##### 4. 充実感を感じる時

クラブ活動, 実習(特別実習), 睡眠, 遊び, 友人との話し合い, 趣味, アルバイト

##### 5. 不安, 悩み

進級・卒業, 就職, 将来, 国試, 対人関係

#### VIII. 本学に望むこと

施設・設備の充実(食堂, 生協, 駐車場), カリキュラムの改正(再試験, 4年次試験時期, 休日), 学費の値下げ, 学舎移転, 就職部の充実, 大学院定員増



# 医療薬学実習制度6年目を迎えて

医療薬学実習担当委員長 酒 井 清  
教 授

薬学の社会への寄与は、ひとつは医薬品の創製・生産を通しての医療への、他方は薬剤師として医療の場における直接的な貢献ではないかと考えられる。従来わが国の薬学は、前者を支える学問としては著しい業績をあげてきたが、後者の面については必ずしも充分でなく、薬学教育も物質中心にかたより、人間とのかわりに乏しい憾みがあった。

薬科大学卒業生の進路は幅広いものがあるが、薬剤師国家試験の受験資格を有する唯一の学部<sup>1</sup>に在学する薬学生に生命尊重の倫理観を持たせることは、医療はいうまでもなく、創薬、衛生等いずれの分野に進む者にとっても必要なことである。在学中に医療の現場である病院で一定期間の実習をする必要性についての論議が始まって久しい。昭和61年9月薬学教育協議会においても「薬学教育と薬剤師教育に関する専門委員会」が設置され、従来の薬学教育と薬剤師としての職能教育との共通部分を薬学教育の identity として捉えるべく検討されている。

本学においても、昭和61年度より、それまで行ってきた4年次生の特別講義コースを、より充実すべく、医療薬学実習、応用薬学実習および臨床薬学実習の学外実習3コースに改善し、それぞれ医療または衛生の現場において、いずれかの実習を行うことになった。医療薬学実習は4年次の後期に行われ、病院により実

習期間に多少の相違があるが、概ね10月1日から12月20日にわたって実施されている。医療薬学実習コース発足以来、平成3年度までに修了または現在実習中の学生数および配属病院は、表1、2のようである。

昨年度、医療薬学実習担当に就任した時点で、来るべき病院実習単位化実施の機運を踏まえ、これまでのシステムを委員会制度に改組し、実習期間、実習カリキュラム、単位認定方法等、いくつかの問題点の再検討にそなえた。

表3は、専門委員会が答申した2週間の病院実習カリキュラムの試案であり、図1は現在病院実習を実施している全国の薬科大学（薬学部）の実習期間である。立場、見解の違いにより種々の意見があるが、全薬学生に医療の倫理、現場を体得させるには、試案の期間、カリキュラムは妥当と考えられる。一方、本学の如き長期実習を全薬学生に対する単位化実施以後も存続させようとする場合においては、病院配属前に現在行っている基礎医学的な教育に加え、臨床薬理学、病態生理学、さらには医療用語等の修得をはかって知識を深めさせ、実習期間中における医療各分野とのコミュニケーションを高めて、そのレベルを向上させ、成果を一層あげていくことが必要ではないかと思われる。

薬物に対する社会的認識は、文化水準の増進と共に

表1 医療薬学実習配属学生数

年 度	4年次学生総数	実習実施病院数	配 属 学 生 数			4年次学生総数に対する割合(%)
			男 子	女 子	総 数	
昭和61年度	290	30	23	66	89	30.7
昭和62年度	235	30	13	58	71	30.2
昭和63年度	266	29	19	51	70	26.3
平成1年度	226	28	13	45	58	25.7
平成2年度	295	32	16	53	69	23.4
平成3年度	295	32	42	40	82	27.8



増々高くなってきており、薬学教育のあり方も時と共に変貌していかなければならない。薬学の年限延長論あるいは特色あるコース別教育が叫ばれている今日、医療薬学実習の実態について、今後おおいに討議を積み重ね、適切な実習制度を定着させていかなければならないと考えている。

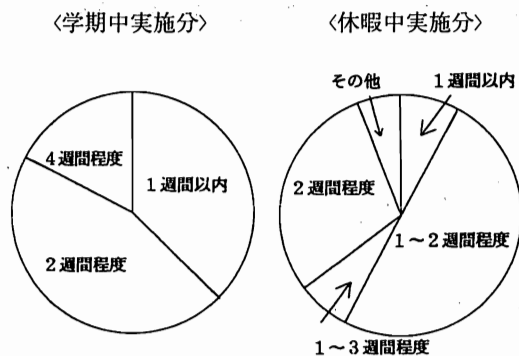
表2 実習依頼先病院 (32病院)

<b>(大阪市内)</b>	
城北市民病院	関西電力病院
大阪府立成人病センター	国立大阪病院
大手前病院	大阪警察病院
大阪通信病院	桃山市民病院
大阪市立大学医学部付属病院	
大阪鉄道病院	大阪府立病院
<b>(大阪府下)</b>	
箕面市立病院	国立循環器病センター
市立枚方市民病院	国立刀根山病院
市立豊中病院	関西医科大学付属病院
八尾市立病院	大阪府立羽曳野病院
市立松原病院	富田林病院
国立大阪南病院	市立堺病院
大阪労災病院	和泉市立病院
泉大津市立病院	市立貝塚病院
市立泉佐野病院	
<b>(奈良県)</b>	
奈良県立医科大学付属病院	国立奈良病院
奈良県立三室病院	
<b>(和歌山県)</b>	
和歌山赤十字病院	

表3 薬学部学生の病院実習カリキュラム (試案)

- (1)薬剤師の医療倫理と職能
- (2)薬剤業務概要
- (3)医療用医薬品の説明
- (4)調剤業務(注射剤交付を含む)の見学または体験
- (5)製剤業務(注射剤混合を含む)の見学または体験
- (6)医薬品管理業務の実際
- (7)医薬品情報業務の実際
- (8)病棟および患者関係業務の実際
- (9)新しい薬剤業務(TDM, 試験, 研究を含む)の実際
- (10)院内・その他の見学

図1 実習実施期間





# 就職状況中間報告

就職部長 森 逸 男  
教授

本年度の企業訪問解禁日（8月1日）が昨年度（8月20日）に比べ20日間も早くなったことを考慮して、新学期早々の4月13日(土)、平成2年度卒業生の就職、進学状況と求人実績、ならびに本年度就職協定と本学の就職指導スケジュールなどの就職ガイダンスを実施した。次いで4月19日(金)より4日間に分けて、部長、委員（赤木、松村両助教授）と4年次生全員（295名）との個人面談で、就職、進学等の希望調査と就職相談を実施し、表1の結果を得た。本年度も昨年度と同じように企業への就職希望者が圧倒的多数を占め、薬局、病院診療など医療機関への希望者の激減が見受けられた。一方求人は、昨年来の好景気に助けられ、表2に見られるように数多くの企業、病院よりの公募に浴し

ている。10月15日現在のところ、関係各位の絶大なる努力ならびに本人の就職への真剣な取り組みの結果、男子約86%、女子約73%の就職あるいは進学内定者を数え、ほぼ昨年度と同じ内定率を見、現在、病院研修生・一部公務員・病院希望者が就職活動中です。表3に見られますように、男子の場合、企業内定者の大半はMR職で、比較的数多くの製薬企業に分散されました。一方女子の企業内定者は希望者の割りに比較的少なく、男子と違って内定までに大変な苦労の後が窺われました。なお女性のMR職への進出は活発で約15名を数えております。また大学院進学者も昨年比で急増、小売チェーン、薬局への内定者も増加するなど、例年と違った傾向が見受けられました。反面病院など

表1 平成4年3月卒業予定者進路希望調査状況

(平成3年4月27日現在)

		男				女				合計	%
		Y	S	計	%	Y	S	計	%		
薬業 関連会社	営業	12	31	43	31.6	3	2	5	3.1	48	16.2
	研究・開発・ 学術・薬品の 管理・発注・ その他	5	9	14	10.3	55	48	103	64.4	117	39.6
薬局・卸		2	4	6	4.4	0	0	0	0.0	6	2.0
病院		7	5	12	8.8	17	17	34	21.3	46	15.5
研修生		1	0	1	0.7	4	1	5	3.1	6	2.0
公務員		5	6	11	8.1	8	1	9	5.6	20	6.8
大学院進学		19	24	43	31.6	2	1	3	1.9	46	15.5
自家業		1	1	2	1.5	0	0	0	0.0	2	0.7
就職しない		0	0	0	0.0	1	0	1	0.6	1	0.3
未提出者		2	2	4	3.0	0	0	0	0.0	4	1.4
計		54	82	136	100	90	70	160	100	296	100



医療機関への就職者は、希望者の大半が学外医療コースに配属されていることもあって就職状況の把握が不十分ですが、現在のところ内定者約10名にすぎません。今後、順次、病院内定者も増加して例年と同じ就職状況に落ち着くものと予想しております。なお大学院修了予定者（19名）は、本人の積極性ならびに各指導教官の努力により、早くより進路・就職の内定を見ております。

表2 平成3年度求人状況（平成3年10月15日現在）

	薬業会社等	卸・薬局	病院	その他	公務員	大学職員	研修生	計
求人件数	175	90	161	45	57	2	13	543
男子	515	235	42	89	6	3		890
女子	263	247	137	96		4		747
男女不問	330	118	212	114	185		39	998
計	1108	600	391	299	191	7	39	2635

### 平成4年度 学部入学試験要領

募集人員 薬学科 120名  
製薬学科 120名 計240名  
出願期間 平成4年1月11日(土)～2月1日(土)  
入学試験日 平成4年2月10日(月)  
合格発表日 平成4年2月16日(日)  
入学検定料 30,000円  
入試科目 数学(数学Ⅰ・代数幾何)  
・基礎解析  
外国語(英語Ⅱ・英語ⅡB)  
・英語ⅡC  
理科(化学)  
試験場 本学(男子)  
代々木ゼミナール大阪校(女子および男子の一部)  
入学手続 1次 平成4年2月28日(金)まで  
2次 平成4年3月25日(木)まで

表3 平成3年度就職・進学内定状況

(平成3年10月15日現在)

		男子	%	女子	%	計	%
薬業 関連 連 合 社	営 業	40	29.7	15	9.4	55	18.6
	研究・開発 ・学術・管 薬・品管・ その他	14	10.4	70	43.7	84	28.5
食品その他会社		2	1.5	3	1.9	5	1.7
薬 局 ・ 卸		13	9.6	4	2.5	17	5.8
病 院		3	2.2	9	5.5	12	4.1
研 修 生		1	0.7	3	1.9	4	1.4
大 学 職 員		0	0.0	3	1.9	3	1.0
公 務 員		5	3.7	3	1.9	8	2.7
大 学 院 進 学		35	26.0	3	1.9	38	12.9
自 家 業 (就職しない)		2	1.5	4	2.5	6	2.0
休 学 者		1	0.7	0	0.0	1	0.3
就 職 未 定 者		19	14.0	43	26.9	62	21.0
計〔4年次 在籍者〕		135	100	160	100	295	100

### 平成4年度 大学院博士前期(修士)課程 入学試験結果

平成4年度大学院博士前期(修士)課程入学試験の実施状況とその結果は次のとおりであった。

募集人員 約16名  
出願期間 平成3年9月17日(火)～9月30日(月)  
学力試験日 平成3年10月7日(月)  
合格発表日 平成3年10月12日(土)  
志 願 者 41名 [男子37(うち学外2)  
女子4(うち学外1)]  
合 格 者 32名 [男子29, 女子3]



## 第26回大薬祭を振り返って

学生部長 稲 森 善 彦  
教 授

第26回大薬祭は、皆様の御協力のもとに、11月10日午後8時無事に終了した。数少ない実行委員の弛まぬ努力が天に通じたのか前日の大雨とはうって変り、後片付けを含む3日間は晴天に恵まれた。実行委員を中心とした参加学生の情熱に心から拍手を送りたい。パンフレットの挨拶（『大薬祭』という松明に火がつい

た!!）でも述べた通り、君達の心の中の「大薬祭」という松明の火は永遠に燃えつづけるであろう。同時に、大薬祭に対し、種々御協力をいただいた教職員の皆様に厚くお礼申し上げたい。さらに、父兄会ならびに同窓会の御援助があったればこそ、大薬祭が挙行出来たのであって、学生部長として、衷心より感謝申し上げ



第 26 回 大 薬 祭  
—ラストカーニバル……!?!—  
(11月9日～10日)



る次第である。近く反省会を開く予定であるが、この2日間感じたことを率直に述べたい。

◎ 今年に限ったことではないが、全学生数に比べて参加した学生数が少ない。この点を考えた時、連日夜遅くまで準備をしていた実行委員を中心とした参加学生の姿を思い浮かべ胸の熱くなる思いがする。現に、大薬祭のタイトルが『ラストカーニバル』であったが、パンフレットの最後に“lasting”（続く）という熱い願いの籠った「心」を考える時、後輩諸君よ!! その松明の火を来年も燃やし続けてほしい。しかし、これこそ、学生諸君の決めることである。大薬祭という「祭典」を考えれば、どうしても「タレント依存」になりがちである。これも決して悪いとは言わないが、もし来年も大薬祭を続けられるなら遊びの中に「薬大生」としての「知性」と「品性」をさらに加えられると遙かに素晴らしい祭典となろう。これも今後の大きな課題の一つである。

◎ 急性アルコール中毒の防止について、最後まで実行委員に色々注文をつけた事は、学生諸君には決して良い思い出とはなっていないと思う。しかし、薬学を学ぶ学生諸君が特異体質なるものを一番よく承知のはずである。生命の尊厳を考えた時、将来のある諸君が急性アルコール中毒で生命を失うといった最悪の事態は学生部長として絶対に避けねばならないという決意で臨んだ。真意をよく理解し協力してくれた実行委員の諸君に心から感謝したい。酒を飲まないで祭典が盛り上らないようでは悲しいではないか。ほどよいアルコール量で楽しい語り合いが出来、平素勉学の場で解らない友人の素晴らしい新しい一面を発見してこそ真の大薬祭ではなからうか。

来年も大薬祭、それも今年の実行委員や参加学生諸君の苦勞が実を結んだ素晴らしい大薬祭が続くことを心の片隅で念じて、「大薬祭を振り返って」としたい。



## 第一生薬学教室

教授 草野 源次郎



生薬学は大きな転換期にある。この30年間、含有成分の分離法と化学構造決定法や合成法が大きく前進し、生薬から直接、間接に数多くの重要な化合物が発見されてきた。それと共に、生薬学の領域から多くの天然有機化学者が輩出した。しかし、生薬学の諸

問題は有機化学だけでは解決できない。これまでの知見を現在の視点に立って解釈・整理し、生薬のお陰で発達した学問・文化を洞察しながら、化学を基礎に物理学、生物学、医学、薬学、社会科学などを動員して、総合化すると共に、新しい方法論を模索することが求められている。

私は、生薬学の新しい方向を模索したいと思い、昨年4月に東北大学薬学部から本学第一生薬学担当として赴任した。研究生生活が探究心や工夫心を育て、人生

のいろいろなところで役立つという思いもある。新しい方向の模索が学生達の研究心を育てる土壌作りに役立つとも思っている。観察・調査—仮説設定—仮説証明の繰返しである研究手法を展開しながら、研究心旺盛な学生であふれる研究室作りに努力している。

現在の教職員は前任の太田長世名誉教授以来の三野芳紀助教授、一昨年度卒業生の阿部真弓副手、浜元静子修士生、10名の特別実習生である。男性4名、女性10名で、研究室の雰囲気は女性上位である。

研究テーマはカンゾウやサラシナショウマなどの重要薬用植物の優良品種選抜のための基礎研究、抗ウイルス、配糖体加水分解酵素阻害、血中脂質低下、PAF阻害などの生物活性のある植物成分の研究、水溶性塩基の単離、精製法の確立と構造・活性の解明、漢方湯液の組成分析、マクリのバイオとカイニン酸生合成の研究などである。

着任以来、多くの人達に助けていただいて、ようやく当教室での研究生生活も軌道に乗りはじめている。特に第二生薬学教室の小澤貢教授と馬場きみ江助教授から、当教室に不足している多くのことを学び、また、便宜をはかってもらっている。本学の研究環境には優れた点が多く、それらを大いに活用させていただきながら、生薬学の進歩に寄与できそうであると夢をふくらませている。また、活力にあふれ、研究心・自立心旺盛な学生が育っていくよう、教育環境の整備に努力を重ねているつもりである。



後列 但馬④、堀家④、吹上④、押川④  
中列 関岡④、小寺④、原田④、関本④、加藤④  
前列 興津④、阿部副手、草野教授、三野助教授、浜元 (M2)

## 化学第二教室

助教授 曾根 節子



化学第二教室は旧研究棟を改造した西館の1階にあります。当教室が始まったのは一講座二教室制が敷かれた年からまだ新しいのですが、一人の教員の教室としては、私が昭和37年に物理化学教室の責任者として任命されて以降30年余の歳月が流れました。

その間物理化学、製剤学、無機薬化学、化学第二教室と教室名が変る毎に、教室の場所も西館2階、東館1階、西館2階そして現在の場所へと移り変わりましたので、教室出身者から訪れる度に教室名も場所も変わって戸惑ったとよく云われて参りました。当時の助手、副手の方々は、引越しの度に大変苦勞されました。現在教員は、吉村由香里助手（本学昭和62年3月卒）と私の2名です。教室の仕事は、私が当初から抱えて

居ります“界面活性剤の乳化作用”に関して、特に活性剤の油、水層への分配平衡、可溶化状態からマイクロエマルジョン、エマルジョンへの移行状態における三成分の濃度変化、濁度変化の検討を続けて居ります。実験は特に根気よく同じ状態を継続することが要求されますが、吉村助手は人柄のよい方で黙々と丁寧な実験を続けて居りその結果が楽しみです。学生は特別実習生として現在6名が在籍し、必ずしもガリ勉の優等生型ではありませんが、夫々の目標を持って努力してくれて居りますし、何よりも思いやりのある明朗な学生ばかりである事は、当教室にとって誠に嬉しい事があります。

特別実習生が来室する10～12月は、丁度殆どの学生が化学実験は初めてである1回生の実習期間にも当り、正直言ってその間の自分達の実験は全くお上げの状態、悪条件下に置かれている教室の一つではないかと思ひます。先年の爆発事故が、時間割で課せられた学生実習の為責任者が研究室に不在の折に起こった事も考え合わせた時、同様な仕事に携わる私達としては、教員配置の配慮等、学部学生に対する教育制度の再考を期待致したいと思ひます。

教室紹介の記事に便乗して、片隅に存在する一教室のささやかですが切なる希望を述べさせて頂きました。



後列 篠田④、堀内④、山口④、佐々木④  
前列 国見④、吉村助手、曾根助教授、井上④

## 就任の挨拶



## 「明るい大阪薬科大学づくり」をめざして

学生部長  
教授 稲 森 善 彦

この度（平成3年6月16日付）、はからずも学生部長の重責を担うことになりました。もとより浅学非才の身ではありますが、皆様の御協力を得て「明るい大阪薬科大学づくり」に力を尽したいと思っております。

言うまでもないことですが、学生部は大学と学生のパイプ役であります。発生する諸問題を学生の代表である学友会執行部と常に具体的に対話を通して解決して参りたいと考えております。『今年だめなら、来年は是非』という態度で、みんなで考えて良いと思ったことは途中でくじけることなく遂行して行きたいものです。

冒頭に「明るい大阪薬科大学づくり」と申しました真意について少し述べさせていただきます。本学の学生諸君は全体としてまじめです。この点は学生部長としても先輩（昭和37年卒）としても大変うれしく思っております。しかし、一方、若さの特権も忘れないでほしいという事です。諸君には努力次第で、将来無限の可能性があるので。それに挑戦してほしいのです。それに連携プレーも忘れないでほしいという事もつけ加えたいのです。私も含めて、理系人の宿命かもしれませんが、往々にして単眼視構造の人間になり易いのです。「タコつぼのタコ」は中は見えても隣が見えないのです。いいかえますと、一步外へ出ますと、他分野の人々と会話が難しい人になってしまうのです。そのためにも、学生時代の特権として、相手の立場を配慮しつつ、自分の意志を遠慮なくはっきり相手に伝え、将来大きな視野に立ち得る人になるよう努力して下さい。要するに、いくら成績が良くても、チームワーク

が出来ない人になってもらってはいけないのです。技術の進歩が目覚ましい今日の医療社会にあつて、たとえ個人がいかに優秀であっても連携プレーがうまく行かないと生命も救えない事もたびたびあることから良き人間関係の必要性を確信しております。

次に大学はあくまでも教育機関ですから、学問をする場所でもあります。全学生諸君には薬剤師国家試験という避けて通れない関門があります。しかしよほどの事が無い限り、授業にまじめに出席していれば合格する試験です。要は学生諸君一人一人の自覚が必要と思います。

最後に、学生諸君と共に風通しのよい、明るい大学生活を送ることができるよう努力して参りたいと思いますので御協力下さい。

### 平成3年度学校法人理事・評議員 叙勲・褒章受章のお知らせ

理事 大村栄之助 勲四等旭日小綬章  
(平成3年11月3日付)  
評議員 藤原 富男 藍綬褒章  
(平成3年11月3日付)

今後ともますますご社健でご活躍のほどを心からお祈り致しますと共に御視い申し上げます。

## 新任の挨拶

# 分析化学での新たな出発

講師 齊藤 睦弘  
(分析化学実習担当)



この7月より第一分析化学教室(千熊正彦教授)の講師として採用していただきました齊藤睦弘です。諸先輩の立派な業績と長年の歴史を有する本学の教職員に加えていただき、その責任の重さを改めて感じております。

かつて、私は多くの薬剤師が活躍する病院薬剤部に勤務し、私自身も一年余りの間薬剤師として働いた経験があります。病院は、患者さんが身近に存在する薬物療法実践の場であり、その中の研究室は大学とはいえ一味違った環境下にあります。そこは周囲から良い意味での刺激を受け、研究室は実務部門と一体となって教育研究を進めていました。しかし、一面では何か気ぜわしいものを常に感じていたように思います。これからは少し分野は変わりますが純粹の教育研究の場

に居られることになり、これまでよりも落ちついて物事に取り組めるのではないかと期待しています。

分析化学は全ての定量操作の基礎となる重要な学問領域です。中でも薬学の分析化学は医薬品の定量を目的とし、その成果は医療と直結した生体試料中薬物濃度のモニタリングや種々の臨床検査法等に活かされてきました。私は分析化学のみを専門としてきたわけではありませんが、このような魅力的な分野で研究する機会を与えていただき大へん光栄に思っております。

臨床の場からは少し遠くなったような気がしますが、最終的には何らかの形で医療に奉仕しようという研究を行いたいと思っております。新しい環境のもとで気分も新たに、従来行ってきた薬剤学的研究も活かした分析化学の研究を展開していきたいと思っております。

浅学の私ではありますが、今後は経験豊富な千熊先生の御指導の下に、本学における分析化学の教育研究の進展のために少しでもお役に立てるよう努力する所存です。新参者故至らぬ点も多いとかと存じますが、皆様どうぞよろしく御指導下さいますようお願い致します。

(注)クラブ顧問「古美術研究部」ご就任

## 特別講演会

日時：平成3年7月24日(水) 15:00  
場所：大阪薬科大学 セミナー室  
演者：Prof. J. W. Yewdell  
(NIH / NIAID, U. S. A.)  
演題：抗原提示の細胞生物学  
主催：日本電子顕微鏡学会関西支部

日時：平成3年11月18日(月) 15:00  
場所：大阪薬科大学 セミナー室  
演者：Prof. F. Scott Mathews  
(Washington University School of  
Medicine, U. S. A.)  
演題：Molecular Structure of a Quinoprotein and  
a Blue Copper Protein in Complex  
主催：日本薬学会近畿支部



## 平成3年度大型機器の 設置について

研究委員長 千 熊 正 彦  
教 授

本年度の私立学校施設整備費補助金（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）交付の内定通知が9月26日付で文部省高等教育局長よりあった。内容は次の通りである。

研究装置：高速X線回折装置システム  
事業経費：59,740千円  
補助予定額：29,000千円  
使用責任者：石田寿昌教授

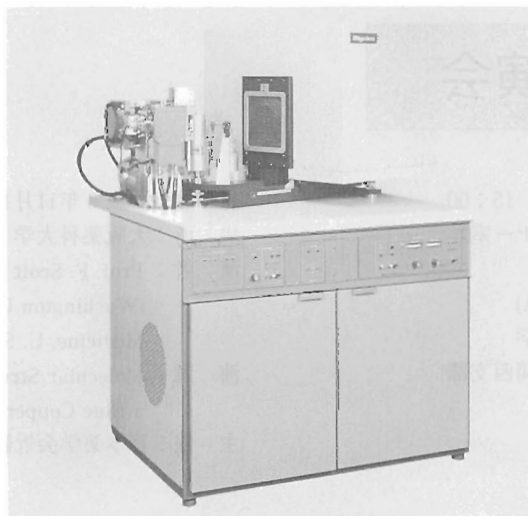
本機器の導入により、本学のX線結晶構造解析の研究は飛躍的に発展するものと期待される。藤田前学長、久保田学長、石田教授をはじめ本学事務当局のご尽力に感謝したい。なお、本機器導入に際し、若干の工事が必要であるが、これも施設課を中心に鋭意進行中である。

本機器に関連する大型機器としては、X線発生装置（昭和48年度）、単結晶自動X線回折装置（昭和53年度）が設置されていた。今回の高速X線回折装置シ

テムの導入により、核酸、蛋白質分子など生体高分子の立体構造解析やこれら分子の示す特異的な生理活性発現機構を分子レベルで3次元的に精密に視覚化し、その結果に基づくドラッグデザインを容易にするなどの成果が期待される。

本学には既に300MHzNMR、二重収束質量分析計、ICP発光分析計などの大型機器が設置され、現在活発に稼働しているが、生命科学、環境科学の急展開に伴い、400MHz以上のNMR、FAB-MS、あるいはICP-MSへの更新が要望される。また、本学に未設置の機器の中では、ESR、Flow cytometry、動的反応解析装置（stopped flow装置）などが今後要望されることが考えられる。しかし、現状では設置場所の確保が難しいこともあり、今後大型機器や情報教育機器などの整備計画の大綱に関して十分に話し合うことが必要であると思われる。

なお、本年度私立大学研究設備整備費等補助金（いわゆる4,000万円以下の助成）については本採用の内定があった。



購入予定の高速X線回折装置





# 平成2年度学校法人決算について

事務局長 吉野 幸夫

去る5月28日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成2年度の決算が審議のうえ承認された。

この決算の概要について、ここ数年來の例に従い、下記の消費収支計算書総括表によって説明することとしたい。

## ＜収入の部＞

平成2年度における帰属収入の合計は、23億7297万円余で、予算に比して2億7238万円余の増であった。この収入増は、主として学生納付金の増と資産運用収入の増によるものである。特に資産運用収入は、予算に比して1億4650万円余の増で、収入増の大半を占めているが、これは折柄の高金利によるものであった。

## ＜支出の部＞

平成2年度における消費支出の合計は、17億7307万円余で、予算に比して4683万円余の減であった。この支出減は、主として修繕費支出の比較減によるものである。

なお、管理経費は、予算に比して566万円余の支出増となっているが、これは教育研究経費に計上していた消

費税を、この経費から支出したことによるものである。  
＜収支の差＞

上記の収入増および支出減に伴い、平成2年度における収支の差は、予算に比して3億1922万円余のプラス勘定となる。

このプラス勘定の結果として、基本金組入れは予算より1億4359万円余多く行うことができ、これに伴い消費収支の差は、4241万円余の赤字となるが、前年度からの繰越金が5億1149万円余あることにより、平成3年度へは、4億6908万円余を繰り越すこととなった。

## ＜基本金組入れ＞

基本金の組入れについては、既述のように将来の校舎建築のための資金として毎年度一定額を積み立てることとしているが、平成2年度においては特に5億円を積み立てることとした。

従って、収入の部にある基本金組入額合計6億4231万円余のうち、5億円は計画的な組入れであり、その余は一般的な組入れである。

なお、校舎建築のための資金としての基本金は、この組入れにより、合計16億円となった。

## 平成2年度消費収支計算書総括表

〔平成2年4月1日から  
平成3年3月31日まで〕

消費収入の部 (単位:円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生納付金	1,416,500,000	1,509,350,000	△ 92,850,000
手数料料	80,600,000	91,849,600	△ 11,249,600
寄附金	0	16,900,508	△ 16,900,508
補助金	340,200,000	348,354,226	△ 8,154,226
資産運用収入	200,000,000	346,505,882	△ 146,505,882
事業収入	12,350,000	11,916,361	433,639
雑収入	50,940,000	48,101,729	2,838,271
帰属収入合計	2,300,590,000	2,372,978,306	△ 272,388,306
基本金組入額合計	△ 498,720,000	△ 642,313,531	143,593,531
消費収入の部合計	1,601,870,000	1,730,664,775	△ 128,794,775

消費支出の部 (単位:円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,178,530,000	1,180,241,890	△ 1,711,890
教育研究経費	536,930,000	512,212,750	24,717,250
管理経費	59,660,000	65,320,285	△ 5,660,285
借入金等利息	14,790,000	14,786,086	3,914
資産処分差額	0	516,584	△ 516,584
予備費	30,000,000	0	30,000,000
消費支出の部合計	1,819,910,000	1,773,077,595	46,832,405
当年度消費支出超過額	218,040,000	42,412,820	
前年度繰越消費収入超過額	511,497,024	511,497,024	
翌年度繰越消費収入超過額	293,457,024	469,084,204	

## 提 言



# 本学広報活動の現状と問題点

広報委員長  
教授 保 坂 康 弘

### ◎はじめに

大学の広報活動は、おのずから当該大学の教育、研究の水準が反映されており、その現状と問題点は、そのまま当該大学の現状と問題点を反映している場合が多い。しかし包括的な大阪薬科大学の改革などをめぐる議論には、それにふさわしい場があると思うので、この小論では、広報活動をめぐる問題点の提起に留めたい。

### ◎現状と問題点

#### 1. 『大学の冬』という時代認識

大学審議会の結論を待つまでもなく、経済大国となった日本社会の変化（情報化、国際化、高齢化）に伴って、今、日本は戦後第2次教育革命の時期に遭遇しており、各大学はその対応に迫られている。本学の研究環境も大いに変わった。例えばこの10年、全研究室にパソコンが行き渡り、バイオ研究技術も浸透しつつある。

しかしながら、問題意識の度合いはどうだろうか？

87年の伝統に支えられて、松原市という都心から離れた地域で、比較的平穏無事に過ごしてきた大阪薬科大学にとって、これから予想される『大学の冬』とも称せられている厳しい時期に迅速かつ的確に対処していくことは容易ではない。広報活動も、この点をきちんと報道していく必要があると思われる。

#### 2. 大学の個性と進取の気性

私見によれば、上記のような事情もあって、本学では新しい試みに対する“臆病さ”が目につくのである。

大学審議会の意見を本学でどう活かすかを考えるよりは、よその大学でどういう結果が出るかを待っている。「個性のないのが本学の個性である」というような声も耳にする。しかし、臆病であっては個性が出て来るはずがない。また『個性づくり』と掛け声をかけてすぐ個性ができるものでもない。教授各個人が中心になり、それぞれが自分の研究、教育を積極的に推し進める。柔軟な感性をもって、真摯に自然を学んでいけば、必ず、自然はその神秘の扉を開けて教えてくれるのである。このような過程で、大学共同体の中における一つの個性が生まれてくるものと考えている。

本学の歴史と地域特性—大阪道修町の薬業界の手により大阪道修薬学校として生まれた—これはもう一つの明確な個性といってよい。歴史を振り返り、大阪の地で薬業界に貢献してきた伝統を大切にして、学問の分野で進取の気性をもって新しい個性を創造していきたいものである。

#### 3. 本学の広報手段とその有効利用

##### (1) 大学広報

学報、入学案内、受験票その他、一般の人々の目に触れるものはすべて、『大学の顔』の一部であるとの認識の下に、その形式や内容について平易な口語体で、簡潔に書く努力が必要である。例えば受験票に関しては、広報委員長の発議によりその内容が来年度分から改善されることになった。

本学の関係機関（父兄会・同窓会）では父兄会報、同窓会報等があり、それぞれにふさわしい役割を果たしている。これらの会報にもお願いして本学の現状、将来の方向などについて、関係各位の理解と協力を得るため努力が必要であろう。創立90周年、さらには100周年の記念事業についても、その具体的計画をスタートさせるべき時期

に来ている。

- (2) 本学での学会やシンポジウムの開催の奨励
- (3) 公開教育講座、教養講座、大学開放日など

現在の卒業後教育を中心に据えた公開教育講座の他に、地域市民を対象にした教養講座なども組織して、大学の文化的啓蒙活動を展開することも必要と思われる。こういう活動を通じて、今後、社会人を学部、大学院に迎えていく素地ができることが期待できる。また現在は予備校の模試会場等としての教室貸与に限定されているが、今後は大学施設（グラウンド・体育館・ホール・図書館等）の一般開放日の設定なども面白いと思う。

- (4) 本学以外での広報手段

① 学術活動成果の学会発表、学術誌発表など

これはもう学者に共通の基本活動の一つであるが、広報の観点からも重要であると思う。学会その他で発表される学術活動の成果如何により、内外の注目を集めたり、無視されたりする。創造的な成果が大きければ大きい程、それが一つの牽引車となって大きな流れとなり、大学の存在を浮き彫りにし、その特徴や個性づくりに役立つことになる。

② その他の広報活動

薬事日報、日本薬剤師会雑誌、APOTHEKERなどの薬学界雑誌への一般論文、学術論文の積極的発表も望ましい。前者の2雑誌最新号には、

それぞれ久保田学長の論文『薬科大学のあり方（18歳人口急減への対応）』と『国際的に通じる薬剤師免許の認定を』が掲載されている（薬事日報7925号、平成3年10月5日；日本薬剤師会雑誌 Vol. 43 (10)：平成3年10月1日）。

また APOTHEKER No. 3 (11月号) には本学の紹介記事が掲載される予定である（10月1日行われた広報委員長、田中教務部長の共同インタビュー内容をもとに編集される）。

## ◎おわりに

本学の広報活動の質・量ともに改善するためには、まず本学の教育、研究の水準を高めることが根本であり、そのための学長及び各教授の責任は重い。最近学長が率先して、学内外の諸雑誌に薬学及び薬学界の将来について指導的論文(提言)を次々に発表しておられるのは我々として心強い限りである(前節3—(4)—②参照)。我々教授全員もお互い自己研鑽の努力を更に進めて、教育、研究活動の水準を一層高めるよう努力したいと思う。

本学広報委員会としては、この小論で述べてきたことの実現に努めるとともに、江湖の声を率直に聞き、学報その他の紙面の改善に努力したい。本学構成員である皆さんからの積極的投稿等を歓迎したい。なお広報活動とも関係のあることとして本学のテレホンカードの製作を提案したい。

## 一口メモ

### 「樹医」とは

緑を大切にすることが叫ばれて久しいが、日常見回してみると、気づかずに或いは急ぐあまり、または目先の利益のために緑を犠牲にしている例を見聞きすることが少なくない。例えば、寺の境内を墓地に変えるために寺の古木群を思い切りよく切り払ってしまった例、キャンパスの回りにフェンスを立てる邪魔になるからと、天空高い樹林を切り倒してしまった例、衰えた古木を簡単に処分してしまう例、街路樹や庭園の必要以上の剪定をする例、などがある。

そういうわけで、或る程度の権限をもった『緑のコンサルタント』或いは『樹木の医者』という立場の人が必要になっている。35年前に自ら『樹医』を名乗り、それ以来1200本以上の古木、名木を診断、治療してきた山野忠彦(90才)という人がいる。翁曰く、『5, 60年生の木は、1年間で約6トンのスモッグを処理して

くれる。そして大人4人、子供2人が必要とする酸素に常時変えてくれる。無償ですよ。御礼の気持ちを含めて木に感謝するのが礼儀というものでしょう』と。(平成3年6月20日毎日新聞『思う』欄)

この『樹医制度』が、来年度から発足する予定である。林野庁がバックアップし、(財)日本緑化センターが運営にあたる。『樹医』の守備範囲は、①病樹の外科的治療、②病虫害の診断と防除外科、内科的治療、③栄養改善や環境整備などの内科的治療、④回復不能の病樹の後継樹の育成など。また『樹医』の対象者としては、大学、研究所、農林高校や専門学校の教職員、公共団体や民間団体の緑化関係職員、その他が考えられている。その募集要項が近々つくられる予定で、1, 2週間程度の研修後、試験を受け、合格者に『樹医』の資格が与えられるという。

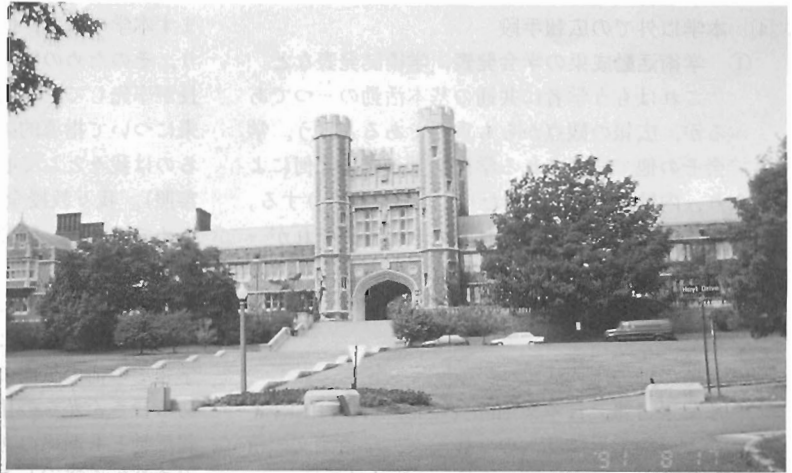
問い合わせ先：大阪営林局管理課 Tel. : 06-947-4135 (Y. H.)



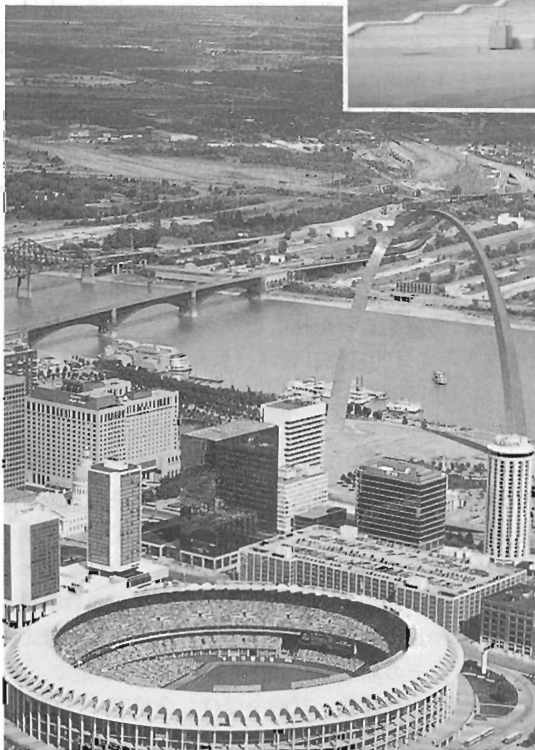
## ワシントン大学留学レポート

第一物理化学教室 講 師 土 井 光 暢

ワシントン大学は米国ミズーリ州のブルースで有名なセントルイスにあり、医学部、理工学部、法学部など11学部をもつ私立大学です。私はこの医学部に1990年9月から1年間留学する機会に恵まれました。セントルイスは、ミシシッピー川に面した北アメリカ大陸のほぼ中央に位置する人口250万人の全米



ワシントン大学メインキャンパス正面



ゲートウェイアーチとブッシュスタジアム  
うしろの川はミシシッピー川

第5番目の都市ですが、超高層と呼ばれる建造物は無く、非常に平たく広がった自然豊かな（田舎的な）町並みを有しています。ここには Budweiser の Bush，試薬の Sigma，化学の Monsanto，ステルス戦闘機の McDonnell-Douglas，航空機の TWA などの本拠地があり、産業も盛んな地域ですが、他の大都市圏に比べて治安も良く、物価も低いので比較的暮らしやすい所だったと思います。ただし、内陸部なので気候の変化は極めて激しく、特に春と秋の期間は異常に短く、一日の最高/最低気温の差が20℃以上あることも珍しくありません。

ワシントン大学は約90年前の万国博覧会跡を利用して建てられたもので、非常に美しいキャンパスを持っています。医学部はメインキャンパスから3 kmほど西にあり、4つの病院棟と10以上の研究棟によって Medical Center を形成しています。ここには日本からも多くの方が留学に来られていますが、そのうち9割以上がお医者さんでした（これは留学生活の上で



ワシントン大学医学部の Barnes 病院(左)と研究施設(右)

思わぬメリットでした。内科から小児科まで各専門の方に日本語で相談できる訳ですから)。また、この医学部は全米でも非常に高くランキングされるようで、ここに在籍したことのある研究者の中から今までに2人の現役を含めた14人がノーベル賞を受賞していることからこのことを伺い知ることができます。私が在籍した研究室は医学とはあまり関係が無いのですが、「蛋白質のX線結晶構造解析」を専門とするグループで、Mathews 教授を中心に7人のスタッフが主に酸化・還元系に関連した酵素の構造解析を行っています。私のテーマもこれに関連した酵素の精製・結晶化と他のいくつかの酵素の解析でした。

精製を行う時以外はコンピューターワークが主で、VAX と IRIS コンピューター（本学の情報処理システムと同じ：学報第16号参照）で解析計算と3Dグラフィックスに明け暮れる毎日でした。なかでも、1990年に発表された X-PLOR という新しいプログラムを使った解析方法は、莫大な CPU 時間と仮想記憶を必要としますが従来の方法よりはるかに精度の良い結果が得られました。日本でも現在注目されつつありますが、それに先駆けて学べたことは幸運であったと思います。

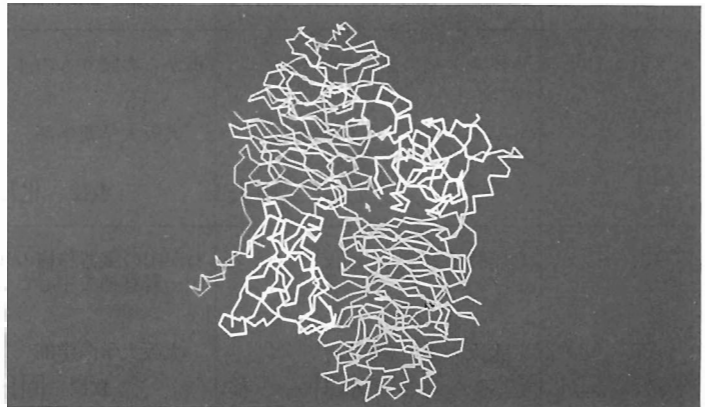
また、プログラムの実行に当たり、スタンフォード大学とピッツバーグ大学のスーパーコンピューター（CRAY / YMP）を使用する機会がありましたが、1000マイル以上離れた場所に出向くことなく、自分の机にある端末からネットワークを通

じてアクセスしていました。もちろん大学内の全てのコンピューター（IBM のパソコンや Machintosh を含めて）とアクセスすることも可能です。これは極めて強力な研究手段のひとつで、膨大な量のデータのやりとりは磁気テープなどの媒体で運搬する必要はなく、ネットワークを通じて転送することが日常化していました。日本でも国立大学などの計算センターを介せばネットワークにアクセス可能なので、現在も本学の情報処理室からワシントン大学の友人達と研究結果やメッセージの交換を行っています。

いろいろ失敗もありましたが、Methylamine Dehydrogenase（300残基のテトラマー）という酵素については全解析過程の80%ぐらいまで進み、全アミノ酸部分の構造を決定することができました。補酵素や蛋白質中の水分子などはすでに新しいポストドクによって構造決定がほぼ終了していることと思います。

最後になりましたが、このたびの貴重な留学経験の機会を与えて下さいました学長先生並びに井上正敏教授に深く感謝致します。また留学に際し御賛同、御協力頂きました諸先生方並びに教職員の皆様にも厚く御礼申し上げます。この留学中に経験させて頂いたことや学んだことは、今後本学における研究及び教育に還元してまいりたいと存じます。

(注)11月2日(土)、本留学帰国報告会が24教室において多数の来聴者を迎え開催されました。



MADHのテトラマー構造

# 平成3年度公開教育講座

本年度の公開教育講座は下記の要領で実施されました。本学卒業生ならびに医学、薬学に関心を持つ社会人を対象として、興味深く充実した内容になるよう、本年度は講演テーマを明確にして日程を設定しました。第一日目は「医薬品の開発」、第二日目は「構造と機能」そして第三日目は「臓器移植」とし、それぞれの分野での第一人者の先生方に講演をお願いしました。また、最後に久保田学長が「今後の薬学教育」と題して講演され、本年度の公開教育講座を総括していただきました。世話人として極めて有意義で充実した内容



であったと自負しています。

一方、学外からの参加者は34名と例年同様の少人数でありました。これは、講演内容よりもむしろ毎年行われる教育講座に対する関心の低下によると思われる。それ故、出来るだけ多くの方がこの公開教育講座に参加できるようにするには、一般市民も対象とした具体的でより現実に即した講演内容を含む一般教育講座への転換等、大胆かつ早急な改善/改革が必要と思われます。公開教育講座が本学主催の重要行事の一つである以上、その改善/改革には全関係各位の参加、協力が不可欠であります。

(記 公開教育講座委員会)

8月24日(土)	21世紀を見つめた医薬品研究  武田薬品工業株式会社 取締役研究開発 副本部長 西川 正夫	免疫抑制剤 F K 506 の発見と開発  藤沢薬品工業株式会社 探索研究所 主任研究員 田中 洋和	医薬品の開発を目指したカテプシンB阻害剤のデザイン  大阪薬科大学  教授 石田 寿昌
8月31日(土)	ウイルス病の話  シオノギ医学研究所長 京都大学名誉教授 日沼 頼夫	海からの贈りもの  大阪大学薬学部  教授 北川 勲	微生物産生物質の構造と活性  大阪薬科大学  教授 稲森 善彦
9月7日(土)	角膜移植と Eye-bank  大阪大学名誉教授 水川 孝	わが国の臓器移植の現状 ……腎移植を中心として……  大阪大学医学部 教授 園田 孝夫	

## 経理課だより

### I. 学費納付について

学部学生及び大学院生の学費納付についての主な注意事項は次のとおりである。

#### ① 納付期日

授業料等の納付金は分割払で納付期日は次の通り(期間厳守)。

前期：4月11日～4月20日

後期：10月16日～10月25日

#### ② 納付方法

本学所定の振込依頼書による銀行振込みとする。

- (1) 毎年納付期直前に、振込依頼書を父兄宛に郵送する。この振込用紙によって銀行(信用金庫、農協等でも可)の窓口より、電信扱いで振込むこと。尚、この振込用紙を使用せずに振込んでも受付けない。
- (2) 三和銀行及び大和銀行の本支店からであれば、振込手数料は無料。他の金融機関からであれば有料。
- (3) 父兄の住所・電話番号等に変更があれば、速やかに学生課まで届け出ること。(経理課に直接届け出る必要はない。)

#### ③ 同窓会入会積立金

学部学生は、卒業までに30,000円の同窓会入会積立金を納付する。納付方法は3期分割払い。すなわち3年次前・後期および4年次前期の学費納付時に各10,000円の同窓会入会積立金を学費に加えて振込依頼書にて請求する。

#### ④ 学友会費の改定

平成3年度から学友会費の値上げにより、学部学生は全員年額5,000円(従来4,000円)を納付することになった。平成4年度からは、前・後期各2,500円の学友会費を学費に加えて振込依頼書にて請求する。

### II. 消費税の改正について

「消費税法の一部を改正する法律」(平成3年5月15日法律第73号)が、平成3年10月1日から施行された。教育関連の若干の改正事項(非課税対象の拡大)があるが、本学にとっては従前どおりの学費に変更はない。

すなわち、本学では学生諸君の利益のために、消費税法が施行された平成元年4月以来、消費税の転嫁による学費の改定(値上げ)は一切行ってこなかったという経過がある。したがって上記の処置の対象となる事項が存在しないのである。

### III. 証紙券売機について

卒業・成績証明書発行、学生証再発行、再受験(再試験)、図書館文献コピー等の手数料の納付は、経理課入口横に設置の証紙券売機にて証紙を購入し各申込書の証紙貼付欄に貼付し、担当課に提出する。(ただし再受験(再試験)料については、受験時に直接答案用紙に貼付する。)

証紙は各項目別になっているので、項目や金額をよく確認してから購入のこと。

尚、券売機の作動時間は、原則として平日AM9時～PM6時、土曜日AM9時～PM4時30分までとなっている。

(記 経理課係長 秋月延夫)



証紙券売機

## 教務課だより

### ◎大学設置基準改正について

今回、戦後初の大幅な大学設置基準の改正が行われ、平成3年7月1日より施行された。その改正に至る背景から対応について教務の立場で述べさせて頂く。

#### [背景]

戦後約半世紀、時代の移り変わりと共に、大学教育に対する種々の社会的要請（科学の進展と技術革新、社会機構・産業構造の変化、18歳人口の減少、国際化、情報化、地域社会の要請）が生じてきた。これらの要請に対応するため、大学教育の改革が必要に迫られてきた。

#### [経過]

##### (臨時教育審議会答申)

昭和62年8月7日、教育改革の8つの基本事項が臨時教育審議会より答申された。

- ① 個性の重視
- ② 基礎、基本の重視
- ③ 創造性、考える力、表現力の育成
- ④ 選択の機会の拡大
- ⑤ 教育環境の人間化
- ⑥ 生涯学習体系への移行
- ⑦ 国際化への対応
- ⑧ 情報化への対応

##### (大学審議会答申)

平成3年2月8日、大学審議会からの「大学教育の改善」(答申)において、大学教育の改善の方向として、

- ① 特色あるカリキュラム編成と柔軟かつ充実した教育組織の設計
- ② 学生の学習の充実
- ③ 一般教育と専門教育の改善
- ④ 多様な学習機会の提供

について提言された。また大学教育改善の方策として、

- ① 大学設置基準の大綱化
- ② 大学評価システム
- ③ 財政措置

が挙げられた。

#### [大学設置基準の改正]

大学審議会は、大学教育の自由化・柔軟化を実現するため、大学教育の基本的枠組を規制していた「大学設置基準」の簡素化、大綱化を提言していたが、これに応じて、平成3年7月1日より大学設置基準が改正された。

その内容は多岐にわたるため、ここでは骨子だけを記す。

- ① (教育研究活動等の状況に関する)自己点検および評価の導入
- ② 授業科目の区分の撤廃(一般教育と専門教育の区分をなくす)を含む教育課程の編成
- ③ 学習機会の多様化(科目等履修生、単位互換、編入学)

#### [総括：本学の対応]

18歳人口は平成4年度にピークを迎え、以降の年度より急減を開始し、各大学は受験生獲得のための競争が激しくなることが予想される。今までの「大学が学生を選ぶ時代」から「学生が大学を選ぶ時代」となり、大学は生き残るためには、学生のためになる特色ある教育・個性ある教育を実施する必要に迫られてくる。

今後、本学においても、大学のカリキュラムの編成についても「大学設置基準の大綱化」に基づき、次のような点を考慮していかなければならない。

- ① 一般教育と専門教育との有機的関連性に配慮する。
- ② 本学の教育理念・学部の特徴を教育目標に対応させる。
- ③ 4年間一貫の、調和のとれた、かつ効果的な体系づくりを図る。

そして常に教育・研究の点検を行い、社会的要請に答えるべく改善の努力を行うため、自己点検・評価の実施体制を確立することも重要である。また学生に対するカリキュラム・ガイダンスの実施や授業計画(シラバス)の作成についても、学内の体制を整え、その充実を図らなければならない。

(記 教務課係長 松尾真充)





## 学生課だより

### ◎'91ミーティングキャンプに参加して

8月30、31日の両日、関西地区大学セミナーハウス(神戸)において、各クラブの親睦と情報交換および第26回大薬祭(11月9、10日開催)についての協議のため、ミーティングキャンプが開催された。

参加者は各クラブの部長、副部長など85名、大学より学生部委員の望月教授をはじめ6名の計91名であった。

30日は午後3時より5時まで全体会議が行われ、学友会執行委員長の山本大樹君③より本キャンプの主旨説明と学友会活動に対する協力要請があった。つづいて望月教授他学生部員の先生方より次のような要望があった。

1. 傍観者の態度をとらず、諸行事へ積極的に参加すること。
2. 生活の基本である挨拶を励行すること。
3. 薬学のカリキュラムのなかで、課外活動に参加するために、練習方法等の工夫をすること。
4. 学生の本分は学業であるので、それに影響がでるアルバイトは自粛すること。
5. 五月祭での飲酒による事故をふまえ、薬学生としての自覚を持ち、節度ある飲酒を心掛けること。
6. 講義、実習に積極的に取り組むこと。

最後に望月教授が、「活発な意見交換が行われ、意義のあるキャンプとなるよう祈念する」と結ばれた。この後、大薬祭実行委員長の大畑保君③より大薬祭



(テーマ：“ラストカーニバル…?”の概要の説明があり、その運営方針を中心に話が展開された。

7時からの分科会では大薬祭運営の細部が協議され、その後先生方と有志学生との間で意見交換が行われた。31日は午前9時から全体会議が行われ、昨夜の分科会の協議内容の報告、各クラブより薬連の成績、合宿、活動状況等の報告があり11時に閉会、解散した。

本キャンプに初めて参加して感じたことは、会議の進行が終始、学友会、実行委員会、大学側からの一方的な伝達となり、一般学生諸君の前向きな意見があまり出てこなかったことである。会議の運営そのものを見直す時期にきているのではないかとの印象を受けた。

(記 学生課長 井頭八郎)

## 学友会費の改定について (お知らせ)

学友会は学生生活の充実と向上を図るため、日頃から活発な活動を行っています。

しかし、現在の学友会の予算ではクラブ活動の援助費、その他の諸経費を十分まかなうことができず、学友会活動に支障をきたすようになってきました。そのため、去る5月18日の学生大会において会費の値上げを審議し可決されました。

したがって、本年度より学友会会則の一部(第2章会員の権利・義務の第10条)が改正、施行されています。

学友会費(年額) 4,000円(平成2年度まで)  
→5,000円(平成3年度より)



## ◎迷惑駐車はやめよう！

本学は駐車場のスペースに余裕がなく、学生のための自動車駐車場はありません。また交通事故から学生の身を守るため、事故等の刑事責任による国家試験受験資格の喪失防止のため、自動車通学を原則として禁止しています。にもかかわらず、道交法に基づく駐車禁止区域での違法（迷惑）駐車が最近目立ちます。特に河合小学校正門入口及び河合ハイツ前の西除川堤防道路の駐車は非常に悪質で、近隣住民からひんしゆくを買っています。

学生諸君は、電車・バス等の公共交通機関を利用して通学するようにしてください。

(記 学生課係長 神田吉秋)



## ◎喫煙について

喫煙の害については、最近よく話題になっていることなので改めて述べるまでもない。一方、喫煙の利点についてもタバコを吸う人にとってはそれを感じるから吸うのであり、否定すべきではない。ただ、社会的にもタバコの害に対する認識が定着してきており、吸い過ぎに気をつければよいだろう。ただし、これは吸う人本人についてのことであり、本人以外の人に影響がある場合は少々話が違ってくる。

タバコを吸う人にとっては気にならない煙も、吸わない人にとっては大変な迷惑である。タバコを吸わない人が受動的に吸い込む煙により、長期的に見ると健康上害をうけることである。場合によっては吸う人よりも強く害を受けることもあり、はなはだ迷惑なことである。吸わない人にとって煙はとても臭いものであり、気分も悪くなってくる。服や髪においがしみつき、目にもしみて痛む。

また、タバコは火による危険、つまり、不始末によるやけどや火事の危険性も持っている。

タバコを吸う、吸わないは個人の自由だが、他人をその煙で不快にすることまでは含まれない。他人、特に影響を強く受ける子供などの方に煙が流れないように気を配ったり、人が多く集まる場所では喫煙を控えるなどすべきであろう。また、吸うときは周りの人の了解を得ることも形式的ではあるが必要なことである。そして、当然のことながら歩きながらくわえタバコで他人に迷惑をかけてはいけない。

しかし、大多数の人がタバコを吸うところでごく少数のタバコを吸わない人が禁煙を求めることについては、一概にはどちらが正しいとは決められないだろう。双方に相手のことを思いやる心があれば、お互いに不快な思いをすることも減ってくる。

ほっと一服するとき、あなたの周りには様々な価値観を持った人がいることを忘れてはいませんか。

(記 学生課主任 古本浩三)

## ◎就職資料室を利用しよう



就職資料室には求人票や会社案内、定期刊行物を中心に就職に関する資料が揃えられています。さらに本年6月、ビデオ一体型テレビ（TH-14VT21K）が設置され、ビデオを視聴してもらえるようになりました。現在のところ

- ・会社案内 37本
- ・県別企業案内 4本
- ・就職活動案内 4本

を所蔵しています。資料室での視聴および貸出もしていますので、希望者は学生課まで申し出て下さい。

就職は一生を左右する大切な選択ですから、進路選定について早くから研究することが必要です。小さな資料室ですが大いに活用して下さい。

(記 学生課員 澤田あつ子)

## 図書館だより



英字新聞もあります！ 新聞閲覧コーナー

### ①新聞閲覧コーナー整備の完了について

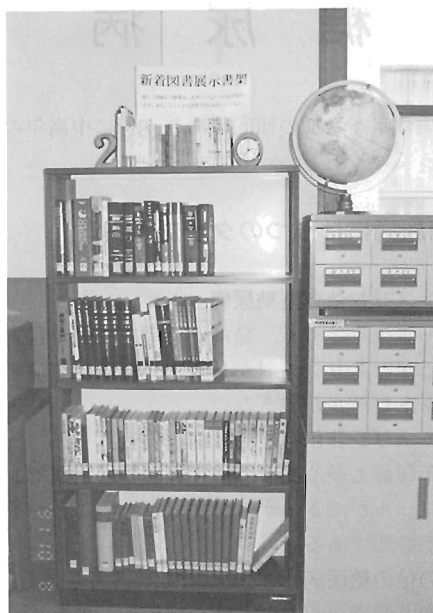
- 新聞閲覧台、椅子、観葉植物などを配置し、さらに照明を明るくし、より快適な状態で閲覧ができるようになったので大いに利用してもらいたい。
- 現在の購読紙は、朝日、毎日、日本経済、読売、毎日デイリーニュースの一般紙となっている。その他、科学新聞や各種業界紙も常備している。

### ②図書館 F A X (33-1465) の設置について

- 利用は原則として図書館事務（文献情報や大学の原稿等の発着信）に限る。
- 本館交換台 F A X (32-9929) の業務時間外で緊急の場合、教職員に限り、一般業務に関して利用することができる。但し、費用については教室費支出とする。

### ③平成3年度図書入荷状況について

- 1階受付カウンター前の「新着図書展示書架」へ1ヵ月ほど展示（貸出し可）の後、それぞれの分類基準による書架へ配列している。
- 主な入荷図書一覧（詳細は「増加図書目録、Vol. 56～57」を参照）



話題の本からベストセラーまで～新着図書

人文、社会科学系：大地の子、諸葛孔明、海辺の扉、NP、かくして日は昇る、セクシュアルハラスメント撃退マニュアル、松下幸之助発言集、私本太平記、大学教授  
自然科学系：脳死と臓器移植を考える、医の倫理、発がん性、第12改正日本薬局方、ホーキングの最新宇宙論、女性のための生命科学

A V関係：＜オーディオテープ＞

实用英語講座（1～3級クラス）

＜ビデオテープ＞

ロマンチック街道、ベルリン天使の詩、モーツァルト青春への旅路、星座紀行宮澤賢治銀河鉄道の夜、淀川長治ビデオコレクション、情報工学、JTBの海外ビデオシリーズ

### ④図書館の人事異動（平成3年6月1日付）

- 転任：学生課員 澤田あつ子（前図書課員、司書）

（記 図書課長 高橋正好）

# 糖尿病



糖尿病は年々増加の傾向にあり、特に中高年の人に多くなっている。

## (1) 糖尿病には3つのタイプがある。

### 1. インスリン依存型糖尿病

小児や青少年に多く、発病が急激でやせが目立つ。治療にはインスリン注射が必要で、経口糖尿病薬は血糖のコントロールができない。

### 2. インスリン非依存型糖尿病

中高年に最も多く食事療法、経口糖尿病薬で血糖のコントロールができるが、合併症があることが多いので注意が必要である。

### 3. その他の糖尿病

肝硬変、膵炎、パセドー病などの病気のためおこるもの

## (2) 糖尿病にかかりやすい条件

1. 家系に糖尿病の人がいる (3点)
2. 20代前半より現在の体重が6 kg以上増加している (2点)
3. 家系に肥満、脳卒中、心臓病の人がいる (1点)
4. 糖分や脂肪分を好んで食べる (1点)
5. 運動不足である (1点)
6. アルコールをよく飲む (1点)
7. ストレスが多い (1点)

(点数を合計し6点以上の人は要注意、早急に血糖検査をした方がよい。)

## (3) 糖尿病の原因

糖尿病の多くは糖尿病体質をもつ人にあらわれる。食べ過ぎや運動不足のため、膵臓から分泌されるホルモン(インスリン)の働きが減少し代謝異常をおこす。そのため血液の中にブドウ糖が残り、尿に糖が出るようになる。

## (4) 糖尿病の症状

のどの渇き、多飲、多尿、疲労感などが主な症状である。自覚症状がなくても高い血糖値を放置しておくと、神経障害や血管障害がおこりインポテンツにもなる。

## (5) 糖尿病の疑いがあれば

### 1. 尿検査と血糖検査

尿の中のブドウ糖(尿糖)検査だけでは不十分であるから、血液の中のブドウ糖(血糖)検査をうけることが大切である。

### 2. 糖負荷試験

軽度の糖尿病では空腹時血糖値は正常であるから、糖負荷試験をうけた方がよい。  
検査前にブドウ糖75gを飲み、一定時間毎に血液をとり血糖濃度を調べ、糖尿病にかかっているかその程度を判断する。空腹時(ブドウ糖を飲む前)血糖140mg/dl以上、負荷後1時間、2時間の血糖値が200mg/dlは糖尿病又は糖尿病型と判定される。

### ○正常な血糖値

空腹時 110以下

1時間値 160以下

2時間値 120以下

2時間値が140~200の時は糖尿病予備軍と診断される。

## (6) 糖尿病予備軍

空腹時や食前の血糖値は正常なのに食後1時間、2時間の血糖値が正常より高い。この状態を放置しておくと糖尿病になりやすく、動脈硬化にかかりやすい。

(7) 糖尿病の対策

次のように、よいコントロールを生継続ける。

1. 正常又は正常に近い血糖値を保っていること
2. 体重が適正になっていること
3. 血圧やコレステロールが正常になっていること
4. 合併症による異常がみられないこと
5. 動脈硬化が予防されていること

(8) 糖尿病の予防と治療

食事（アルコールの飲みすぎをやめる）と運動に気をつけ、十分な休養をとりストレス解消につとめる。

◎正しい食生活をする

1. 三度三度規則正しくとる
2. 腹7～8分にして偏食しない
3. 塩分をひかえる
4. 主食は穀類を中心にする
5. 一汁、三菜、果物、牛乳などメニューを工夫する

◎生活に運動をとりいれる

1. 歩く運動を中心にする
2. 筋力アップのできる運動、体操などを組み合わせ、いつでもどこでも一人でもできるようなものを選ぶとよい。

◎薬物療法

適正体重であるのに血糖のコントロールが不十分な場合、降下剤かインスリン注射が必要であり、医師による指導と指示を守ることが重要である。

最後に、血液検査のチャンスがあれば、積極的に受検して、その数値を知り成人病を予防し、自分で健康管理を心がけてほしい。

(記 保健婦 福島笑子)



平成3年度

文部省科学研究費補助金採択状況

研究代表者	研究種目	研究課題	金額 (千円)
教授 森本 史郎	重点領域	血管内皮細胞におけるエンドセリン-1の産生機構	2,000
教授 石田 寿昌	一般研究B (継続)	mRNA キャップ構造認識タンパク質の遺伝子発現と認識機構の構造解析	1,800
教授 池田 潔	一般研究C (継続)	ホスホリパーゼA <sub>2</sub> の触媒機能の分子論	700
助教授 木村捷二郎	一般研究C (継続)	γ線照射による製剤中医薬品の活性化に関する研究	700
教授 栗原 拓史	一般研究C	抗ウイルス性海洋天然物ユーディストミン類縁化合物の合成と構造活性相関に関する研究	1,100
教授 千熊 正彦	一般研究C	ヒドロキソ架橋型複核白金錯体の生成反応および化学反応の速度論および平衡論的解析	1,900
教授 森本 史郎	一般研究C	組織カリクレイン前駆体の活性化機構とその調節機構に関する研究	2,000
講師 松村 靖夫	奨励研究A	摘出動脈灌流標本におけるビッグエンドセリン-1からエンドセリン-1への変換	800
講師 藤本 陽子	奨励研究A	胃粘膜病変の発症と治療におけるプロスタグランジンの役割に関する研究	900
講師 井上 晴嗣	奨励研究A	ヘビ血漿由来ホスホリパーゼA <sub>2</sub> 阻害タンパク質とホスホリパーゼA <sub>2</sub> との相互作用	900
合計金額			12,800

# 奨学生状況

(平成3年11月20日現在)

本学では19.4%\*の学生が各種育英会・奨学会から奨学生として採用されている。今年度の採用はすべて終了したので、その状況について説明する。

## ◎日本育英会

奨学生の81.5%が日本育英会に採用されている。この奨学金は貸与であり、第一種（無利息）と第二種（3%の利息）がある。もちろん貸与の条件は、家計・成績とも第一種の方が厳しい。採用は全国規模で行われ、おもに新入生が対象であるが、その人数は予算の関係上、その年卒業した奨学生の数とほぼ等しくなることになる。

今年卒業した奨学生は平年より若干少なく、従って日本育英会から本学に示された採用予定人数も前年より4名減少し38名になった。しかし、4年次生で貸与を辞退等した人の補充枠を新入生に回したり、家計の急変による応急採用を認めてもらったことにより、昨

### 1. 日本育英会

	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	合計
1種	22(2)	22	23(2)	23	4	6	1	1	1	103(4)
2種	29(5)	20	28(2)	25	—	—	—	—	—	102(7)
計	51(7)	42	51(4)	48	4	6	1	1	1	205(11)

( )内は内数で留年による1ヶ年停止者。

### 2. その他の育英会・奨学会

	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	計	給・貸
父兄会奨学会 20,000円	4	1	1	2	6	14	給
小野奨学会 30,000円	1	0	1	0	—	2	給
佐藤奨学会 17,000円	0	0	1	0	—	1	給
大東育英会 15,000円	3	0	0	0	—	3	給
朝鮮奨学会 20,000円	1	0	0	1	—	2	給
大阪府育英会 20,000～23,000円	4	2	7	7	—	20	貸
岡山県育英会 35,000円	0	1	1	0	—	2	貸
山口県奨学会 31,000円	0	0	1	0	—	1	貸
計	13	4	12	10	6	45	

年並の採用人数となり、新入生の希望にそえたものと考えている。

## ◎父兄会奨学会

昭和57年、7名の採用で発足したこの奨学会も今では14名にまで充実してきた。他の奨学制度と異なり採用期間は1年間だが（再選考を経て継続可）、月当たり20,000円給付される。

今年は学部生からの有効な応募がとて少なく、院生の採用が少し増加した。なおこの奨学会は応募者全員から家計その他を基準として採用を決定するので、応募状況により学部生の学年間や学部生と院生の比率に数字としての差が表れることもある。

## ◎その他の育英会・奨学会

今年は給付の奨学生に採用された学生が5名もあり、その結果に満足している。ただ、これらは採用人数が少ないので、来年度はあまり期待できないかもしれない。

最後になりましたが、奨学金のことで相談があればいつでも学生課まで来て下さい。

\*2種類の奨学金を受給している学生は15人。

## 平成3年度関西薬学連盟大会結果

クラブ名	個人部門	団体部門 (参加大学数)
剣道部	男子 新家 昇④ (2位) 女子 吉川佳代子② (3位)	男子 3位 (8) 女子 3位 (8) 新人戦 3位 (8)
硬式庭球部	女子 野島 陽子① (4位)	男子 7位 (10) 女子 6位 (11)
硬式野球部		優勝 (5)
サッカー部		8位 (8)
柔道部	男子 本岡 伸介① (2位)	男子 2位 (5)
卓球部	男子 W鶴飼 誠④・金田 喜久③ (2位) 女子 S西川 順子③ (2位)	男子 5位 (9) 女子 優勝 (9)
軟式庭球部	女子 W三木 恵子④・矢部こずえ③ (3位)	男子 6位 (11) 女子 優勝 (11)
バスケットボール部		男子 3位 (8) 女子 6位 (8)
バドミントン部	女子 W森 律子③・大西 佳美③ (3位) W原 寿子②・川崎 鈴子① (3位)	男子 5位 (10) 女子 6位 (12)
バレーボール部		男子 2位 (9) 女子 2位 (9)
陸上競技部	男子 湯浅 敏寛② (2位) ハンマー投 松本 吉弘② (2位) 砲丸投	男女総合 4位 (5) トラック 5位 (5) フィールド 2位 (5)
漢法医学研究部		研究発表 (9) テーマ「柴胡加竜骨牡蠣湯」

## 平成3年度全国薬学連盟大会結果

剣道部	女子 正木 史子③ 優勝	女子 2位 (11)
卓球部	男子 W鶴飼 誠④・金田 喜久③ (3位) 女子 W原田美納子④・西川 順子③ (2位)	男子 5位 (8) 女子 4位 (8)
軟式庭球部	女子 W三木 恵子④・矢部こずえ③ 優勝	男子 4位 (13) 女子 2位 (13)
バスケットボール部		男子 2位 (11) 女子 6位 (11)

(注) ○の中の数字は年次を示す。

## 平成3年度 各部・委員会・委員一覧

◎は各部署の長

[No. 24 (1991. 6. 5) 掲載分以降]

学生部	◎稲森 善彦 (教授)
望月伸三郎 (教授)	有本 正生 (助教授)
濱中久美子 (助教授)	松村 靖夫 (講師)
辻坊 裕 (講師)	
学生寮	◎望月伸三郎 (教授)
稲森 善彦 (教授)	馬場きみ江 (助教授)
藤本 陽子 (講師)	
総務委員会	◎久保田晴寿 (学長)
森本 史郎 (教授)	田中 千秋 (教授)
森 逸男 (教授)	沼田 敦 (教授)
小澤 貢 (教授)	保坂 康弘 (教授)
稲森 善彦 (教授)	吉野 幸夫 (事務局長)
広報委員会	◎保坂 康弘 (教授)
三野 芳紀 (助教授)	濱中久美子 (助教授)
森本 武司 (庶務課長)	高橋 正好 (図書課長 資料室長)

## 人 事 異 動

名誉教授発令 (平成3年4月1日)

堀田 輝明  
福井 淳造



学生部長発令 (平成3年6月16日)

稲森 善彦 (教授)

講師発令 (平成3年7月1日)

齊藤 睦弘 (第一分析化学教室・新採冊)

主任発令 (平成3年10月1日)

古本 浩三 (学生課)

配置換発令 (平成3年6月1日)

澤田あつ子 (学生課・図書課より)

退任 (平成3年6月15日)

坂田勝治教授・学生部長

(任期満了につき)

退職 (平成3年6月10日)

野田 淑子 (学生課事務職員)

## 平成3年度 後期行事予定

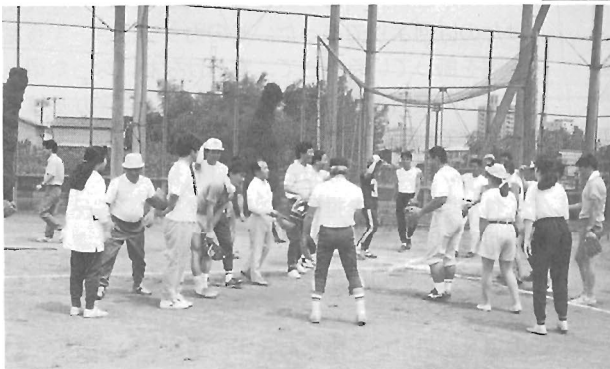
[平成3年]	
10月1日(火)	後期授業開始
	前期定期試験欠席届提出締切 (教務課)
10月5日(土)	後期選択科目履修届提出締切 (教務課)
10月12日(土)	前期追試験 (1・2年次生)
19日(土)	
11月9日(土)	第26回大薬祭等 (臨時休講)
11日(月)	
11月9日(土)	前期再試験 (3・4年次生)
14日(木)	
11月16日(土)	平成4年度特別実習説明会 (3年次生)
11月18日(月)	平成4年度特別実習配属願提出 (教務課)
21日(木)	
11月30日(土)	後期定期試験選択科目受験届提出 (教務課)
12月5日(木)	
11月30日(土)	前期再試験 (3・4年次生)
12月7日(土)	
12月17日(火)	平成4年度特別実習配属内定 (3年次生)
12月19日(木)	前期再試験 (3・4年次生) 結果発表
12月24日(火)	後期授業終了 (4年次生)
12月25日(水)	冬季休業
1月7日(火)	
[平成4年]	
1月8日(水)	授業再開 (1～3年次生)
1月8日(水)	後期定期試験 (4年次生)
10日(金)	
1月14日(火)	後期授業終了 (3年次生)
1月16日(木)	後期定期試験 (3年次生)
28日(火)	



1月23日(木) 再試験(4年次生)  
 31日(金)  
 1月28日(火) 後期授業終了(1・2年次生)  
 1月31日(金) 後期定期試験(1・2年次生)〈前半〉  
 2月6日(木)  
 2月7日(金) 第1次卒業生発表(教務課)午後5時  
 2月10日(月) 平成4年度学部入学試験  
 2月14日(金) 特別再試験(4年次生)  
 19日(木)  
 2月16日(日) 平成4年度学部入学試験合格者発表  
 2月17日(月) 後期定期試験(1・2年次生)〈後半〉  
 22日(土)

2月19日(木) 再試験(3年次生)  
 3月2日(月)  
 2月24日(月) 後期定期試験(1・2年次生)欠席届提出締切(教務課)  
 2月27日(木) 第2次卒業生発表(教務課)午後5時  
 2月28日(金) 後期追試験(1・2年次生)  
 3月5日(木)  
 3月16日(月) 進級者発表, 1・2年次生進級者未修得科目発表, 再試験(3年次生)結果発表(教務課)午後5時  
 3月21日(土) 第39回学部卒業式並びに第16回大学院修了式

## 親和会だより



大阪薬科大学親和会(現会員数 132名)は、会員の親睦と厚生を図ることを目的として専任の教員および職員により組織されています。ここ数年は、会員間の親睦を深めるために、夏にはスポーツ大会を、冬には一泊旅行を恒例行事として行っています。本年度は、7月13日(土)、午後1時より、野遠グランドにおいて、ソフトボール大会を行いました。

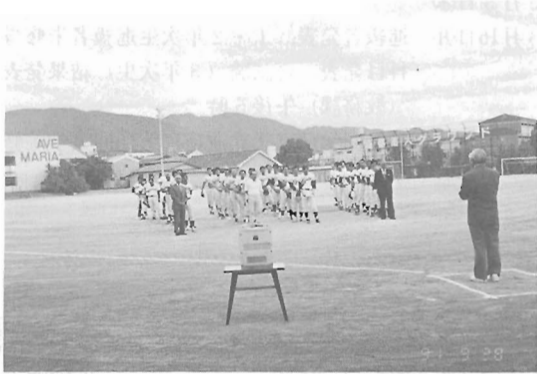
参加者28名はA, B, Cの3チームに分かれ、各チーム2試合ずつ、計3試合の総当たり戦を行いました。成績は体育の望月教授を中心としたCチームが1勝1分という僅差で優勝し、また2位には石田教授、掛見教授率いるBチームが1勝1敗で、保坂教授、木村助教授率いるAチームは残念ながら1敗1分て3位になりました。試合当日は、盛夏を思わせる大変暑い一日でしたが、幸い天候に恵まれ、参加者は接戦のなかにも和気あいあいとソフトボールを楽しみました。

気持ちのいい汗をかいたあと、夕方から、中庭でバーベキューパーティを行いました。参加者は、どこから集まってきたのか昼間よりさらに増えて50~60人となり、用意してあった60ℓもの生ビールがあっという間になくなってしまったというハプニングもありました。しかし、片手に生ビールの入ったカップ、片手にお皿をもち、夜のふけるまで、大いに飲み、大いに食べ、大いに語り合いました。

本年度の親和会の今後の予定としては、1月に歌舞伎鑑賞会(中座)、3月にスキー旅行(志賀高原)を計画しています。なるべく多くの方々が、このような行事に参加することは、お互いの意思の疎通を図り会員間の相互理解を深めるという意味で、非常に有意義なことと思いますので今後とも会員の皆様のご協力をお願いします。

(記 親和会幹事 助手・鶴岡浩志)

## '91 四薬大親睦野球大会



'91四薬大野球大会 開会式

台風一過の秋晴れの下、恒例の四薬大親睦野球大会が9月28日(土)、今年度主幹校である京都薬科大学グラウンドで行われた。本学からは紅一点(宮原副手)の初参加を含む選手23名、応援団を加えると総数38名もの参加者があり、久保田学長が所用で不在であったにもかかわらず、人数の上でまず他校を圧倒していた。

午後1時からの開会式の後、初戦は対京薬戦であった。図書課長高橋投手の熱投もさることながら、一回表の先制攻撃は実にすさまじく、2本のフェンス越えホームラン(増家施設課員、河籬助手)を含む猛攻で京薬を完全に圧倒し、9-4で楽勝した。一方、グラウンドの他面では早々と勝負がつき、4-2で神女薬が武庫川に勝っていた。したがって我々の期待とおり優勝戦は大薬-神女薬となった。そもそも草野球ではプロ野球以上に投手の力量が勝敗を左右するものである。事実、昨年は同じ神女薬との優勝戦で相手の速球投手の前に、浦田助手の好投にもかかわらず、1-0で完封負けを喫していたのである。そのニガイ思い出があるだけに雪辱戦といえる優勝戦の前に浦田投手の入念なウォーミングアップが目についた。初戦での猛打で波に乗り、一挙に勝敗を決してしまいたいところであるが、前半は息詰まる白熱戦であった。しかし結局本学の終始好調な打撃が神女薬に勝り、8-3で6年ぶりの優勝を勝ち取ることができた。ベンチで采配をふるう監督としては、早い回に大量得点が入ってくれる程楽なことはない。23名の選手を大して迷うことなく

次々と交代して出場してもらえるからである。その点、今年は2戦ともかなり早くから得点できたことと、今大会の試合ローカルルール(代打、代走、代守後も再出場できる)のおかげで、ほぼ全員に出場のチャンスを与えることができた。このルールは人材が豊富で、またそれぞれが投打走、いずれかに出色の選手が多い本学にとって誠に幸いかつ有利であった。

夕方、大学ホール3Fで懇親会が催され、京薬田中学長から優勝カップが本学に贈呈された。5年前に設けられた四大学野球大会優勝カップに優勝チームとしてリボンがひらめいていなかったのは本学のみであっただけに、翌日久保田学長から「良かった」と喜んで頂けたのは何よりであった。そのカップは今、学長室の一隅を飾っている。さて、宴たけなわになった頃、各チームの優秀選手賞の発表があった。本学からは2試合連続で捕手としてホームベースを死守し、打ってはホームランを含む8打数6安打6打点の大活躍してくれた増家選手を推薦し、田中学長より賞品(図書券)が授与された。

こうして土曜日の午後を大いに楽しむことができたのは、京都薬科大学当局のお世話によるものであり、この場をお借りして厚くお礼申し上げたい。さて、いよいよ来年は本学が主幹校であり、遠方から参加して下さる他校の方々に心から楽しんで頂けるよう皆様方の御協力をお願いする次第である。最後に、今年以上の力強いご声援とともに、難しいといわれる2連覇(対戦相手組合せ循環方式による初戦の神女薬戦を突破することがその第一条件となろう)に向けて熟年の先生方にも奮って参加して頂けることを期待しつつ筆を置く。

(記 教授 栗原拓史)

### '91 野球大会結果

#### 第1戦

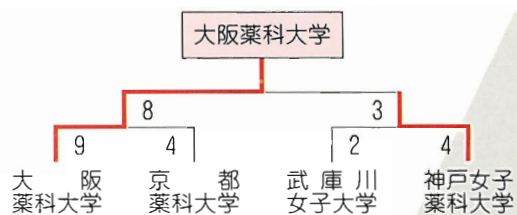
大阪薬科大学 3 2 0 2 2 = 9  
京都薬科大学 0 1 1 0 2 = 4

#### 優勝戦

神戸女子薬科大学 0 0 1 0 0 2 = 3  
大阪薬科大学 1 1 4 2 0 X = 8



笑顔と拍手の優勝カップ授与式



輝く記念のリボン……来年もぜひ



勝利の女神?! 我がチームの紅一点



6年ぶりの頂点! 感動のVサイン

葦

編集・発行

大阪薬科大学広報委員会

〒580 大阪府松原市河合2-10-15

TEL 0723(32)1015(代表)

FAX 0723(32)9929